

## 白石高生物班 決意新た

# バイカモ保全広げたい

## 全国サミットで研究成果発表

◇ 白石市の白石高科学研究部生物班が「全国高校生マイプロジェクトアワード」の全国サミットに出場し、市内の沢端川に自生する水草バイカモ（梅花藻）の保全活動への取り組みを発表した。大舞台を経験したメンバーは「活動を県、東北に広げたい」と意欲的だ。

◇ 全国サミットは3月23、24日に東京であり、高校生が地域や身の回りの課題を見つけ、解決に向けた取り組みを発表した。

地域大会を通過した48組が出場し、白石高の1〜3年のメンバー6人は「白石の梅花藻を守れ！」をテーマにこれまでの活動状況を紹介した。

メンバーは全国サミットに先立つ3月16日、部室の生物実験室で卒業生から、5年前に始まった研究の経緯などを聞いた。大学3年佐藤汰一さん(20)からは「以前は川で調査していると不審な目で見られた。優秀な先輩たちの活躍が楽しみ」とエールをもらった。大会本番は研究内容を分かり

やすく伝えることを心がけ、話し方などにも気を配った。結果として最終日も発表する6組には選ばれなかったが、指導する中村望教諭(40)は「夜遅くまで練習し、当日は気持ちのこもった発表だった。成長を感じた」とねぎらった。

生物班長の新3年二本木乃碧さん(17)は結果を悔しがりつつも、他の高校生の発表に大いに刺激を受けた。「サミットでは全国規模の活動している発表も聞いた。支えてくれる人たちへの感謝を忘れず、活動の幅を白

石市外にも広げて研究を発展させていきたい」と気持ちを新たにした。

生物実験室のバイカモ水槽前で、これまでの活動を卒業生とともに振り返る生物班メンバー

